

## 複合品目として加工用タマネギに取り組む農家の 収量向上による産地の振興

対象者 大規模タマネギ生産者群

### 【普及活動のねらい】

令和2年度までの活動において、10aあたり4t以上生産したモデル農家を2戸育成しました。今年度は10aあたり4t以上生産できる農家を増やすため、加工業務用タマネギの総作付面積約8haの約6割を占める30a以上の農家を対象に、治療効果のある殺菌剤を中心とした予防防除・早期防除が実践できるよう支援を行いました。

また、早植え栽培や直は栽培などの新たな栽培方法の提案や、排水対策の徹底など働きかけを行いました。

### 【普及活動の内容】

令和4年産タマネギの栽培については、現地巡回や防除情報、気象条件を踏まえた情報誌の配付と現地での巡回を実施し、治療効果のある殺菌剤を中心とした予防防除・早期防除を提案しました。また、早植え栽培を実施した生産者については、収穫が適期に実施されるよう、収穫時期の判断や作業スケジュールの策定を支援しました。

令和5年産タマネギの栽培については、順調に定植作業を行うため、額縁明渠による排水対策や土壌診断の実施、「べと病」だけでなく収穫後の腐敗対策にも対応した殺菌剤のローテーション散布の提案を行いました。

### 【普及活動の成果】

令和4年産タマネギについては、提案を理解し早期防除の意欲が高まったことで積極的に防除を実施され、前作よりも治療効果のある薬剤を散布した割合が増加しました。「べと病」の被害による大きな収穫量の低下もなく、10aあたり4t以上収穫した農家が前作よりも増加しました。また、早植え栽培を実施した生産者については、前作と比較し、球重が重くなったことにより、慣行並の収量が確保できました。

令和5年産タマネギについては、早植え取組農家は増加しなかったものの、さらに排水対策を確実に実施したことで、定植作業が適期に計画的に実施できました。

今後も、タマネギ産地の収量の向上に向け、支援を継続します。



大型機械による収穫の機械化



定植時の碎土度合いと苗質を確認